

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 5 日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520436

研究課題名(和文)中国近現代における宣講活動による民衆教化に関する調査研究

研究課題名(英文) Research and Study of Edification for Masses by Popular Lecture in Modern and Contemporary China

研究代表者

阿部 泰記 (ABE, YASUKI)

山口大学・人文学部・教授

研究者番号：40091227

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：皇帝の訓諭である「聖諭」を宣読し講説して民衆を教化する「聖諭宣講」は、民衆に親近感を持たせるため、近代に至って説唱(語り物)形式の民間芸能に変容していった。そうした説唱形式の「聖諭宣講」は、現代では湖北省の「漢川善書」にしか伝承されていないが、実は全国に分布して民衆教化に奏功していたと思われる。この研究ではテキストを収集することによってそれを明らかにした。

「聖諭宣講」は近代に至って地方芸能に採り入れられた。この研究では、現地調査によって、湖北大鼓などの形式による「宣講」の存在を明らかにし、近現代においては、「聖諭」のみならず、「政策」宣講が行われるようになったことも具体的に明らかにした。

研究成果の概要(英文)："Xuanjiang Shengyu" which is reading and explaining the emperor's admonition, for making intimacy in a people, developed into "Shuochang" form in the modern times. "Xuanjiang Shengyu" ranged to the whole country yet, and succeeded in enlightenment of a people actually. This study made this fact clear by collecting "Shuochang" form texts.

"Xuanjiang Shengyu" was also brought into the local entertainment like "Hubei Dagu" "Xiangbei Dagu" "Shandong Dagu" "Taiwan Nian 'ge", and "Xuan-jiang" came to be performed "Policy Xuan-jiang" as well as "Sheng-yu Xuan-jiang" in the modern times. This study made this fact clear by field survey.

研究分野：中国文学

キーワード：聖諭宣講 聖諭 宣講 湖北大鼓 湘北大鼓 山東大鼓 台湾唸歌 政策宣講

1. 研究開始当初の背景

(1) 「聖諭宣講」の研究に着手したのは、公案小説の研究を進める過程で、『躋春台』四巻四十篇(1899)という作品が胡士瑩『話本小説概論』(1980)に「最後一種擬話本集」(最後の一種の擬話本集)と定義されたが、作中で主人公が長篇通俗詩歌を吟詠することに疑問を抱いた。

(2) 『中国曲芸志』湖北巻(1993)が刊行されたことによって、実はこの作品が「聖諭宣講」という民衆教化のテキストであったことを知った。

(3) 陳兆南『宣講及其唱本研究』(1992)、游子安『勸化金箴』(1999)、酒井忠夫『増補中国善書の研究』(2000)などの先行研究を参考にして研究に取りかかった。

(4) 日本・中国に蔵するテキストには、『宣講集要』をはじめ大部分の唱本が方言で表記され、四川・湖北等で使用される「西南官話」であることを明らかにした。

(5) 湖北省漢川市と仙桃市を調査して、「聖諭宣講」が日常的に「書館」(演芸場)で上演され、春節には「台書」(舞台上演)と称して上演されていることも確認した。

(6) 「聖諭宣講」は近代まで四川省で盛行していたが、現在では湖北省漢川市だけにしか行われておらず、申請者は2002年以来、現地調査を行って地域芸能として民衆に親しまれていることを明らかにした。

(7) こうした当地との協力の結果、「漢川善書」は2006年に国家無形文化財に指定され(第一批国家級非物質文化遺産第269号)、同年十一月に「2006 漢川善書国際学術研究討論会」が開催された。

2. 研究の目的

(1) 中国の郷村における民衆啓蒙は「郷約」と呼ばれる地方自治組織の中で始まり、後に明の太祖の「六諭」や清の康熙帝の「聖諭十六条」も「郷約」の中で実施された。都市においては語り物や演劇などの上演形式を取って民衆啓蒙が行われた。

(2) 本研究では正統文学の観点からは人々を墮落させるとして禁じられていた通俗芸能が、民衆啓蒙のためには活用された経緯を探り、近現代においても通俗芸能による民衆啓蒙活動が行われている実態を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 宣講故事の調査研究

日本・中国には『緩歩雲梯集』『萃美集』『千秋宝鑑』など多くの宣講故事集が存在している。本研究ではそれらを収集し、「聖諭六訓」「聖諭十六条」を实践するためにどのように編纂されたのかを分析した。

(2) 宣講上演の調査研究

湖北省漢川市では「書館」において日常的に宣講故事の上演が行われている。また春節

には「台書」と称して三日三晩続けて宣講故事を上演し、帰郷した人々を含めて村民を楽しませている。一般に宣講の内容は伝統故事が多く、忠孝節義の物語を通じて人道を教えている。また時には現代故事を上演し、青年教育、敬老精神、産児抑制などをテーマとして村人の社会意識を高めている。本研究は上演を継続的に記録収集して宣講の役割を分析した。

(3) 通俗芸能の調査研究

「聖諭宣講」の思想は伝統芸能に影響を及ぼし、歌謡、語り物、演劇による民衆教化も行われた。演劇形式は「郷約宣講」を補強するものとして行われた。現在知られている作品は游子安氏が紹介した『庶幾堂今楽』であるが、ほかに布袋戯として『宣講戯文』がある。語り物としては江南地方の「宝巻」があり、澤田瑞穂氏の研究がある。歌謡には台湾地方の「唸歌」があり、台湾唸歌団が上演している。「聖諭宣講」の主旨は現代にも継承され、「大鼓」などの語り物芸能が伝統故事のほか、社会問題をテーマとした創作作品を上演している。本研究では近現代におけるこうした通俗芸能による民衆啓蒙について調査研究を行った。

4. 研究成果

文献調査と現地調査の成果を整理し、「宣講による民衆教化に関する研究」という草稿をまとめた。その目次と概要は以下のごとくである。

(1) 目次

序章

第一章 宣講の歴史

第一節 『躋春台』は擬話本か

第二節 宣講の伝統とその展開

第三節 日本に伝播した宣講書

第四節 様々な通俗形式の宣講

第五節 「攢十字」形式の歴史

第二章 聖諭分類の宣講書

第一節 「聖諭十六条」と『宣講集要』十五巻

第二節 「聖諭六訓」と『宣講拾遺』六巻

第三節 「聖諭六訓」と『宣講醒世編』六巻

第四節 『宣講拾遺』にならった『宣講管規』六巻

第五節 「聖諭」を注記した『緩歩雲梯集』四巻

第三章 非聖諭分類の宣講書

第一節 雲南の『千秋宝鑑』四巻

第二節 湖北の『觸目警心』五巻

第三節 湖南の『宣講彙編』四巻

第四節 湖北の『宣講大全』八巻

第五節 四川の『万選青錢』四巻

第四章 物語化する宣講書

第一節 四川の『萃美集』五巻

- 第二節 山東の『宣講宝銘』六巻
- 第三節 湖北の『勸善録』残巻
- 第四節 民国の『福海無辺』五巻
- 第五節 湖北の『漢川善書』
- 第五章 新しい時代の宣講
 - 第一節 吉林の『宣講大成』十六巻
 - 第二節 民国・新中国の宣講
 - 第三節 通俗芸能による宣講
- 終章 結論

(2) 概要

第一章「聖諭宣講の歴史」では、まず「聖諭宣講」研究のきっかけとなった『躋春台』の文体と主題についての分析を行った結果、この作品が単なる擬話本や公案小説ではなく、説唱形式を応用した「聖諭宣講」のテキストであったことを述べた（第一節「『躋春台』は擬話本か」）。このため「聖諭宣講」とはどのようなものであったか、その概念と歴史を明らかにした（第二節「聖諭宣講の歴史」）。聖諭宣講には「案証」と呼ばれる因果応報故事や勸善を主旨とした詩歌が用いられる。それではなぜ詩歌が用いられるかについて論じた（第三節「宣講における歌唱表現」）。聖諭宣講は琉球国を通じて日本にも伝来したが、因果応報故事や詩歌を省略した和風のものに変容したことを述べた（第四節「日本に伝来した聖諭宣講」）。詩歌は清末に至ると、因果応報故事と結合して説唱形式となった。このほか、本来の歌謡形式や説唱形式の一種である演劇形式・宝巻形式などが採用されたことを概観した（第五節「宣講における通俗形式」）。

第二章「聖諭分類の宣講書」では、清末の「聖諭宣講」の代表的テキストについて述べた。まず「聖諭十六条」によって案証を分類した『宣講集要』十五巻首一巻が早期に刊行されたことを指摘した（第一節「『聖諭十六条』と『宣講集要』十五巻」）。『宣講集要』の取材源については従来明らかにされていなかったが、本研究では『法戒録』六巻がその中の一種であることを指摘した（附録『宣講集要』が引用した『法戒録』六巻）。続いて「聖諭六訓」によって案証を分類した『宣講拾遺』六巻が刊行されたことを指摘した（第二節「『聖諭六訓』と『宣講拾遺』六巻」）。同じく『宣講醒世編』六巻も代表的宣講書であった（第三節「『聖諭六訓』と『宣講拾遺』六巻」）。また『宣講管規』六巻は『宣講拾遺』にならったテキストであった（第四節「『宣講拾遺』にならった『宣講管規』六巻」）。また「聖諭」を注記するテキストも出現していた（『聖諭』を注記した『緩歩雲梯集』四巻）。

第三章「非聖諭分類の宣講書」では、「聖諭」の中で重視されたのは孝子・節婦の故事であり、したがって「聖諭六訓」「聖諭十六条」に関して均等な案証の収録は不可能であ

り、孝子・節婦の故事を中心に収録した宣講書が出現したことを述べた。各地で編集された代表的なテキストについて、第一節「雲南の『千秋宝鑑』四巻」、第二節「湖北の『触目警心』五巻」、第三節「湖南の『宣講彙編』四巻」、第四節「四川の『万選青銭』四巻」、第五節「湖北の『宣講大全』八巻」について、それぞれ論じた。

第四章「宣講書の物語化」では、時代が下るに従って、民衆を魅了するために、物語化が進行していったことを述べた。『萃美集』五巻（一九〇六）は伝統的な忠孝節義をテーマとして構成していた（第一節「四川の『萃美集』五巻」）。『宣講宝銘』五巻は筆記小説に取材したテキストであった（第二節「山東の『宣講宝銘』五巻」）。『勸善録』残巻は歌唱を用いて感動的なストーリーを構築していた（第三節「湖北の『勸善録』残巻」）。『福海無辺』四巻（一九一二）は善悪の対峙を中軸とした物語を構成していた（第四節「民国の『福海無辺』五巻」）。湖北省の『漢川善書』が現在でも継承されて無形文化財となっているのは、物語性がある聴衆を楽しませているからであった（第五節「湖北の『漢川善書』」）。

第五章「新時代の宣講」では、「聖諭宣講」は近代に至って変容し、民国時代には「八徳」（孝弟忠信礼義廉恥）に関する宣講が行われたこと（第一節「吉林の『宣講大成』十六巻」）、「聖諭」より近代知識を授けることに力点を置くようになり、講演形式が採用されたが、識字率が低かったため、「曲芸」（民間芸能）の力を借りたことを論じた（第二節「民国・新中国の宣講」）。そして現代においても湖北大鼓・澧州大鼓・山東大鼓・広西山歌などによる政策宣講が行われていることを論じた（第三節「通俗芸能による宣講」）。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 12 件)

阿部泰記、通俗形式による勸善宣講について、アジアの歴史と文化、査読無、19巻、2015、二一 - 四八

阿部泰記、日本における聖諭宣講の受容、山口大学文学会志、査読無、65巻、2015、一 - 一九

阿部泰記、中国近代における宣講について、異文化研究、査読無、9巻、2015、1 - 13

阿部泰記、四川の宣講書『萃美集』五巻物語化する案証、アジアの歴史と文化、査読無、18巻、2014、二一 - 三五

阿部泰記、『触目警心』五巻 湖北の物語宣講書、山口大学文学会志、査読無、64巻、2014、一 - 二〇

阿部泰記、『万選青銭』四巻 簡易宣講書

の先駆、異文化研究、査読無、8巻、2014、
51 - 62

阿部泰記、『宣講彙編』四巻 案証の再編、
アジアの歴史と文化、査読無、17巻、2013、
一 - 一三

阿部泰記、吉林の宣講書『宣講大成』につ
いて、山口大学文学会志、査読無、63巻、2013、
一 - 二〇

阿部泰記、『宣講拾遺』『宣講集要』を
継承した宣講書、東アジア研究、査読有、11
巻、2013、238 - 225

阿部泰記、中日宣講聖諭的話語流動、興大
中文学報、査読有、32巻、2013、93 - 130

阿部泰記、湖北の宣講書『勸善録』残本に
ついて、アジアの歴史と文化、査読無、16巻、
2012、一 - 一五

阿部泰記、山東の宣講書『宣講宝銘』残巻
について、山口大学文学会志、査読無、62巻、
2012、二一 - 三七

〔学会発表〕(計 3 件)

阿部泰記、説唱宣講の全国各地への伝播、
山口中国学会、2013年12月13日、山口大学
人文学部(山口県山口市)

阿部泰記、山東の宣講書『宣講宝銘』残巻
について、山口中国学会、2012年12月17
日、山口大学人文学部(山口県山口市)

阿部泰記、中日宣講聖諭的話語流動、「話
語的流動」国際研究会、2012年3月17日、国立
中興大学中文系(台中市)(台湾)

6 . 研究組織

(1)研究代表者

阿部 泰記 (ABE YASUKI)
山口大学・人文学部・教授
研究者番号：40091227